

「第2期基本構想実施計画」 骨子案

1. 策定にあたって（計画の前文部分）

1. 基本構想実施計画

「滋賀県基本構想」に基づく県の取組を進めるうえで必要な主要政策を定めるために策定。基本構想の計画年度である2019年度から2030年度までの12年間を4年ごとの3期に分けて策定するもの。

2. 第2期実施計画の期間

2023年度～2026年度の4年間

3. 策定にあたって

(1) 第1期実施計画の検証

「第1期実施計画～未来へと幸せが続く「健康しが」～」では、政策ごとの目標を定めて施策を展開してきたところであり、2022年時点の状況として、保育所・認定こども園などの子育て環境の整備や、中小企業の新製品開発の促進、道路・河川などの社会インフラの整備などにおいて着実な進捗が図られている一方、観光・交通分野など、とりわけコロナ禍の影響を強く受けて目標達成が非常に厳しくなっている施策や、自殺死亡率の増加などにも表れているように、暮らしの困難さや不安感、生きづらさや閉そく感などの影響と見られる課題が大きく残っている。

コロナ禍の状況を踏まえ、2021年には第1期実施計画の見直しを行い、新たに生じた課題の整理や目標を見直しながら施策を展開してきたが、社会情勢の変化に対応しきれず、ひとの健康や暮らしの安全・安心を脅かす状況があったことを謙虚に省みる必要があると認識している。

(2) 第2期実施計画の策定にあたっての方向性

第2期実施計画では、(1)の検証や次に記載する大きな情勢変化を踏まえ、先を見据えた感染症対策を進めるとともに、こころとからだの健康、安全・安心な暮らし、豊かな自然も含めた滋賀の魅力と社会・経済の活力、それらを支える基盤づくりにかかる政策を推進していく。

今後未知の変化に直面してもひるむことなく、変わらない大切なものを守ること、しなやかに変わり続けることのバランスをとりながら、滋賀の強み、人のつながり、人のちから、子どもの思いなどを大切にした施策の展開を図っていく。

〈第1期計画策定後の大きな社会情勢の変化〉

①新型コロナウイルス感染症の流行

2020年以降の新型コロナウイルス感染症の流行により、社会経済や暮らしは大きな打撃を受け、人々とのつながりの持ちにくさ、先の見えない漠然とした不安感や悩み、生きづらさなど、こころの健康や暮らしの安心が損なわれる状況に直面することとなった。

さらに子ども・若者世代では、学びや交流の機会を奪われたことが将来に予測できない影響を残すことも懸念される。

一方で、人の命とつながりの大切さが再認識され、デジタル化の進展、分散型社会への志向、未来志向の経営革新、自然が持つ価値の再評価といった価値観の変容など、新たな社会・経済への光を見出す動きが進み、大きな転換期を迎えている。

②CO₂ネットゼロ社会の実現に向けた取組の加速化

地球温暖化による気候変動は、自然環境への影響だけでなく、自然災害や健康被害、生態系への影響など、様々な課題を引き起こしており、温室効果ガス排出削減に向けた取組は世界中に広がっている。滋賀県では2020年1月に国に先立ち「しがCO₂ネットゼロムーブメント・キックオフ宣言」を行い、2022年3月に「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」を制定し、「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」に基づいた施策を展開していくこととした。

4. 目指す姿（総合目標）

基本構想では「変わる滋賀 続く幸せ」を理念とし、「未来へと幸せが続く滋賀」の実現に向け、みんなで目指す2030年の姿を描いている。

滋賀で誰もが自分らしくそれぞれの「幸せ」を感じられている、滋賀に誇りを感じ、みんなが住み続けたいと思えるような地域であること、それが「健康しが」が実現されている状態であると捉え、そんな滋賀をみんなで創るという考えから、第二期実施計画では

「感じている幸せの度合い」

「滋賀を誇りに思う人の割合」

「滋賀に住み続けたい人の割合」 （滋賀県政世論調査より）

の向上を「目指す姿（総合目標）」とする。

目指す姿の実現に向けた政策の方向性（政策の柱）や視点などを次項で記載するとともに、総合目標に影響すると考えられる指標や、各政策の柱における主な事業を別に定め、その目標と実績について毎年度把握し、検証・評価していく。

5. 施策の展開

(1)政策の方向性(政策の柱)

目指す姿である「健康しが」とは、「ひとの健康」「社会・経済の健康」「自然の健康」の全てが充足し、またこれら全てが複合的・有機的に連動して実現するものであると考え、その実現のための政策の柱を政策1～政策14にまとめた。

「ひとの健康」「社会・経済の健康」「自然の健康」＝「健康しが」の実現

14の政策の柱

(2)大切な視点「ひとづくり」「子ども・子ども・子ども」

コロナ禍で、「ひと」と「ひと」の関わりが困難な状況が多くみられた中であっても、それを乗り越え、未来を切り拓くのは「ひと」の力であることを再認識。「ひと」が育ち、「ひと」が息づき、「ひと」と「ひと」がつながり、共に生きて未来を拓く希望を大事に育む滋賀であるために、様々な分野で「ひとづくり」を重視した施策を進める。

また、社会の宝であり、共に生きる大切な仲間であり、未来を拓く光である「子ども」。「子ども」を大切に育み、「子ども」の思いや発想を大事にしながら一緒に社会をつくり、今の「子ども」が大人になったときや、ずっとずっと先の世代のまだ見ぬ「子ども」にも思いを馳せながら、「子ども」と、「子ども」に関わるみんなの笑顔が育まれるよう

「子ども・子ども・子ども」を大切にする視点として施策を推進する。

(3)全庁を挙げて取り組む「CO₂ネットゼロ社会づくり」

「健康しが」をつくり、豊かな滋賀を次の世代に引き継ぐためには、温室効果ガス排出削減に向けた取組の推進が待ったなしの状況であることから、CO₂ネットゼロ社会の実現に向けた取組を全ての部局で進める。

(4)あらゆる施策で可能性を検討する「DX推進」

暮らしをより健康的で豊かにし、地域社会の持続的発展につながる新たな価値を創造するための手段として、あらゆる施策を推進するうえで、デジタル技術活用の可能性を検討し、柔軟に取り入れていく。また、セキュリティ対策やデジタル格差対策が講じられた安全な環境の中で、デジタル社会の形成をめざすため、その基盤・ひとづくりに積極的に取り組んでいく。

6. 第2期実施計画の推進にあたって

「おかげさま」「おたがいさま」で社会がつながり、一人ひとりの“自分らしさ”が大切にされ、お互いの“自分らしさ”も大切にする滋賀。

“自分らしさ”を見つけるための環境と土壌が育まれる滋賀。

ひとも社会も自然も生き活きと、暮らしのいろんな場면을“自分らしく”過ごせる滋賀。

そんな滋賀をみんなで描ける、そんな滋賀が未来にも続くよう、「健康しが」の実現を目指して…

(サブタイトル仮) ～みんなで描く健康しが～

2. 第2期実施計画の全体イメージ図

第2期基本構想実施計画

(2023年度～2026年度)

(仮) ～みんなで描く健康しが～

〈目指す姿(総合目標)〉

- ・感じている幸せの度合い
- ・滋賀県に誇りを持っている人の割合
- ・滋賀に住み続けたいと思う人の割合 を今より向上させる

大切にしている視点

ひとづくり

全ての施策の基盤であり
未来を拓く「ひと」のちから

政策2 子どもを真ん中においた
社会づくり

政策3 生きる力と確かな
学力を身に付ける教育

政策4 「自分らしさ」が大切にされ、
誰もが活躍できる共生社会づくり

政策5 暮らしを支え豊かにする
基盤づくり

政策6 人々の幸せと地域の健康を支える
交通まちづくり

政策14 持続可能な社会を支える学びと暮らしの定着、
国際的な協調と協力

政策7 安全・安心な地域づくり

政策1 からだとこころの健康づくり

大切にしている視点

子ども・子ども・子ども

子どもを大切に育み
子どもと一緒に社会をつくる

政策8 コロナ禍からの経済回復、
経営の強化と次世代の産業の創出

政策9 滋賀らしいツーリズム「シガリズム」
の推進と地域の活力づくり

政策10 持続可能な農林水産業の確立

政策11 農山漁村の持つ
多面的価値の発揮

政策12 琵琶湖をとりまく環境の
保全再生と自然の恵みの活用

政策13 気候変動への対応と環境負荷の低減

全庁を挙げて取り組む

CO₂ネットゼロ社会づくり

「CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」に基づく
CO₂ネットゼロ社会づくりへの挑戦

3. 1 4 の政策の柱ごとの方向性と施策の展開

政策1 からだとこころの健康づくり

(※主な関連部局(想定)：知事公室、総合企画部、文化スポーツ部、琵琶湖環境部
健康医療福祉部、農政水産部、土木交通部、教育委員会、病院事業庁)

政策の目指す方向

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への引き続きの対応にぐわえ、今後の新興感染症や自然・事故災害等を見据え、コロナ禍の経験を生かした強い健康危機管理体制づくりを進める。
- 誰もが自分らしくからだもこころも健やかな生活を送ることができるよう、生涯を通じた健康づくりと健康管理による予防を推進する。
- 生まれるときから人生の最終段階を迎えるときまで自分らしい生活が続けられるよう、多様なニーズに対応しながら、切れ目のない医療や介護などのサービスの適切な提供体制の整備や地域づくりを進める。
- 感染症拡大などの突発的な事態の発生時にも的確に医療・福祉サービスが提供できる体制強化を図る。
- メンタルヘルスケアや相談体制の充実を図り、こころの健康を支える仕組みづくりを進める。
- 文化・スポーツを楽しめる機会や環境整備、魅力ある公園づくりを進めることで、誰もがこころもからだも元気で、豊かさが溢れる地域づくりを進める。
- 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催を契機として、県内のスポーツ施設の計画的な整備・充実を行うとともに、競技力向上やスポーツを通じた健康づくりへの取組の促進等レガシーの創出を図る。

施策の展開

- 新興感染症にも対応できる強い健康危機管理体制づくりの推進
- 多様な主体による健康づくりの推進
- 病気の予防と健康管理の充実
- 適切で質の高い、持続可能な医療・福祉を提供する体制の構築と人材の確保・育成・定着
- 高齢者の暮らしを支える体制づくり
- 「食べる健康」の推進
- こころの悩みに寄り添う対策の充実
- 文化財の保全と活用
- 文化芸術を楽しむ機会と環境づくり
- 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」を契機としたスポーツを楽しむ（「する」「みる」「支える」）環境づくり
- 魅力ある公園づくり
- 人と動物の豊かな関わり

政策2 子どもを真ん中においた社会づくり

(※主な関連部局(想定): 健康医療福祉部、
教育委員会、病院事業庁)

政策の目指す方向

- 安全・安心な環境の中で子どもが生まれ育ち、安心して出産や子育てができる社会を構築する。
- 困難な状況にある子どもたちを社会全体で育む環境づくりをはじめ、子どもを真ん中においた社会づくりを進める。
- 子どもが参画し、子どもの目線で、子どもとともに社会をつくる仕組みづくりを検討する。

施策の展開

- 生まれる前からの切れ目のない子育て支援
- 「滋賀の宝」である子ども・若者を社会全体で応援
- 困難な状況にある子ども・若者を支える
- 子どもの目線で社会をつくる仕組みづくり

政策3 生きる力・確かな学力の向上と笑顔あふれる学校づくり

(※主な関連部局(想定): 教育委員会)

政策の目指す方向

- 子どもが確かな学力と豊かな人間性や社会性を備え、未知の時代をたくましくしなやかに生きるための力を身に付ける教育を推進する。
- ICTを活用することで多様な学びを支援する。
- 個性と魅力を高め、学び関わる全ての人が笑顔あふれる学校づくりを進める。

施策の展開

- 確かな学力と子どもの個性を大切にした生きる力を育む教育
- ICTを活用した効果的で多様な学びの支援
- 笑顔あふれる学校づくりの推進

政策4 「自分らしさ」が大切にされ、誰もが活躍できる共生社会づくり

(※主な関連部局(想定): 総合企画部、総務部
健康医療福祉部、商工観光労働部、農政水産部、
教育委員会)

政策の目指す方向

- 誰もが自分らしく活躍できるよう、多様な人が働きやすい環境づくりや柔軟な働き方を推進するとともに、誰もがいつまでも学べ、再挑戦できる環境づくりを進める。
- 多様な人々が互いに支えあい、全ての人が相互に人権と個性を尊重し、誰もの「自分らしさ」が大切にされる共生社会づくりを推進。

施策の展開

- 障害のある人や外国人をはじめ、誰もが活躍できる多様で柔軟な働き方の推進
- 学び直しや再挑戦、異分野・異業種への参入がしやすい環境づくり
- 県立大学のあり方検討

○障害のある人や外国人をはじめ、誰もの「自分らしさ」が大切にされ、居場所があり、活躍できる共生社会の実現

○女性活躍の推進

○人権尊重の社会づくり

○暮らしを支えるセーフティネットの充実

政策5 暮らしを支え豊かにする基盤づくり

(※主な関連部局(想定) 知事公室、総合企画部、琵琶湖環境部
農政水産部、土木交通部、教育委員会、企業庁)

政策の目指す方向

- 自然環境が持つ多様な機能も生かしながら、生活や産業を支える強靱な社会インフラ整備・維持更新を着実に推進する。
- デジタル社会の形成に関する施策を迅速かつ重点的に推進し、地域や産業の持続可能な発展と県民の暮らしをより豊かにする新たな価値創造の実現を目指す。
- 図書館機能の充実や、県民参加の議論の場づくりなどによって、誰もが知や情報に自由に触れ、様々な意見が行き交う土壌づくりを行う。

施策の展開

- 強靱な社会インフラの整備、維持管理
- 図書館の機能とネットワークの充実
- グリーンインフラの推進
- みんなで熟議の滋賀県政
- 暮らしをより豊かにするためのDX推進と人材育成

政策6 人々の幸せと地域の健康を支える交通まちづくり

政策の目指す方向

(※主な関連部局(想定) 総務部、土木交通部)

- 誰もが暮らしやすいコンパクトなまちづくりに向け、市町の立地適正化計画の策定を支援するとともに、駅などの拠点での賑わいを創出するまちづくりを市町と共に進めていく。
- 公共交通の維持確保に向けた取組を進めるとともに、地域特性に応じた新たな公共交通の仕組みづくりを進める。
- 費用面で支え合う仕組みも含めた持続可能な地域交通のあり方を検討する。

施策の展開

- 暮らしやすいコンパクトなまちづくりの推進
- 公共交通の維持確保に向けた取組と新たな公共交通の仕組みづくり
- 移動を支え合い交通をより良くするための税制(交通税)の検討推進

政策7 安全・安心な地域づくり

政策の目指す方向

(※主な関連部局(想定) 知事公室、総合企画部、総務部
健康医療福祉部、土木交通部、教育委員会、警察本部)

- 激甚化・頻発化する災害への対応能力の向上に努めるとともに、自助・共助による地域防災力を強化する。
- 犯罪・交通事故の少ない地域づくりを推進する。
- 空き家対策や地域の特性に合ったコミュニティづくり、地域づくり人材の育成・確保を進める。

施策の展開

- 災害にも強い地域づくり、防災人材の育成・確保
- 犯罪・交通事故の少ない安全・安心な地域づくり
- 空き家の発生予防・利活用と管理不全空き家の除却の促進
- 地域特性に合ったコミュニティづくりと地域づくり人材の育成・確保

政策8 コロナ禍からの経済回復、経営の強化と次世代の産業の創出（※主な関連部局（想定）：総合企画部、琵琶湖環境部
商工観光労働部、農政水産部）

政策の目指す方向

- コロナ禍で大きな打撃を受けた経済の回復を図るとともに、感染拡大防止と経済活動の両立を図るための施策を推進する。
- 移住による就業や、求職者と県内企業のマッチング機会の充実、外国人材の受入および育成や定着に向けて支援を充実させる。
- 先端技術の活用による生産性の向上や円滑な事業承継の支援などにより県内企業の経営基盤を強化する。
- イノベーションの創出や産業の高度化を図り、成長を続けることができる産業構造の実現を目指すとともに、社会・経済情勢の変化や世界の潮流を踏まえた産業創造（誘致）を図る。
- 産業に「触れる」「学ぶ」「つなぐ」機会や環境の創出などにより次世代の産業を支えるひとづくりにつながる施策を推進する

施策の展開

- 事業承継と起業の支援
- 社会・経済情勢の変化に対応した事業展開の支援と
先端技術を活用したイノベーション創出
- 中小企業活性化施策の推進
- 地場産業の技術力と発信力の強化
- 世界の潮流を踏まえた産業創造（誘致）
- 産業のひとづくりの推進、新しい滋賀の高専づくり

政策9 滋賀らしいツーリズム「シガリズム」の推進と地域の活力づくり（※主な関連部局（想定）：知事公室、総務部
商工観光労働部、農政水産部、土木交通部）

政策の目指す方向

- 新たな時代に対応する滋賀らしいツーリズム「シガリズム」の推進やビワイチの推進、コロナ禍によるデジタル化の進展などを活用した地域の活力づくりを進めるとともに滋賀の魅力のさらなる発信を行う。

施策の展開

- 新たな時代に対応する滋賀らしいツーリズム「シガリズム」の推進
- ビワイチの推進
- 地域特産の魅力向上と振興
- 移住促進、DXの推進などによる関係人口の創出
- 首都圏などでの情報発信の充実

政策10 持続可能な農林水産業の確立

（※主な関連部局（想定）：琵琶湖環境部、農政水産部）

政策の目指す方向

- 需要の変化に応じた農林水産物の生産振興やブランド力向上、農林水産業におけるグリーン化・スマート化を推進するとともに、農林水産業の担い手確保・育成を図ることで、持続可能な農林水産業の確立を目指す。
- 県産材の利用促進等により林業の成長産業化を図る。

施策の展開

- 需要の変化に応じた農林水産物の生産振興
- 農林水産業におけるグリーン化・スマート化の推進
- 世界農業遺産「琵琶湖システム」の次世代への継承
- 「滋賀の幸」のブランド力向上と消費拡大
- 農林水産業の担い手の確保・育成
- 森林資源の循環利用による林業の成長産業化

政策11 農山漁村の持つ多面的価値の発揮

(※主な関連部局(想定)：琵琶湖環境部、農政水産部)

政策の目指す方向

- 農山漁村の持つ役割や価値が見直され、持続可能な形で多面的機能が発揮される。

施策の展開 ○多様な主体が連携・協働した共同活動による地域資源の保全・活用

政策12 琵琶湖をとりまく環境の保全再生と自然の恵みの活用

(※主な関連部局(想定)：琵琶湖環境部、農政水産部、土木交通部)

政策の目指す方向

- 森・川・里・湖のつながりを踏まえ、琵琶湖とそれを取り巻く環境の保全再生を図るとともに、そこから得られる自然の恵みを持続的に活用する取組を推進する。
- 多様な主体との協働により、琵琶湖版のSDGsである「マザーレイクゴールズ(MLGs)」を推進する。
- 森林の多面的機能の持続的発揮のため、適正な森林整備を図る。

施策の展開 ○琵琶湖の保全再生と活用 ○生物多様性の確保 ○多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくり

政策13 気候変動への対応と環境負荷の低減

政策の目指す方向 (※主な関連部局(想定)：総合企画部、琵琶湖環境部、農政水産部)

- 温室効果ガスの排出抑制、さらなる省エネの推進や再生可能エネルギーの導入など低炭素社会の実現に向けた取組を行うとともに、気候変動によって起こりうるリスクに対応する適用策を進める。
- 廃棄物の発生抑制や再使用等、さらには資源の有効活用により、一方通行型の経済社会活動から、持続可能な形で資源を利用する循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行を図り、地域循環型社会の構築を推進する。
- 県民が安心して暮らせる生活環境づくりを推進する。

施策の展開

- 気候変動への対応
- 発生抑制や再使用に重点を置いた3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進、環境汚染物質の排出抑制等
- バイオマスの利用拡大による地域内資源循環の推進

政策14 持続可能な社会を支える学びと暮らしの定着、国際的な協調と協力(※主な関連部局(想定)：総合企画部
琵琶湖環境部、教育委員会)

政策の目指す方向

- 環境問題に主体的に関わることができるひとづくりを行うとともに、人々の生活や事業活動における環境に配慮した行動への転換を促進する。
- 琵琶湖や生態系などの課題解決に資する調査研究や技術開発を進めるとともに、得られた知見などの発信により世界の湖沼保全に貢献する。

施策の展開

- 環境学習等の推進
- 調査研究・技術開発の推進、国際的な協調と協力

4. 全体に通じる視点 など

全体を通じて大切にする視点 **ひとづくり**

コロナ禍で、「ひと」と「ひと」の関わりが困難な状況が多くみられた中であっても、それを乗り越え、未来を切り拓くのは「ひと」の力であることを再認識。「ひと」が育ち、「ひと」が息づき、「ひと」と「ひと」がつながり、共に生きて未来を拓く希望を大事に育む滋賀であるために、様々な分野で「ひとづくり」を重視した施策を進める。

ひとづくりの視点で進める主な施策

(政策1より)

○適切で質の高い、持続可能な医療・福祉を提供する体制の構築と人材の確保・育成・定着

(政策2より)

○生まれる前からの切れ目のない子育て支援
○「滋賀の宝」である子ども・若者を社会全体で応援
○困難な状況にある子ども・若者を支える

(政策3より)

○確かな学力と子どもの個性を大切にした生きる力を育む教育
○ICTを活用した効果的で多様な学びの支援

(政策4より)

○障害のある人や外国人をはじめ、誰もが活躍できる多様で柔軟な働き方の推進
○学び直しや再挑戦、異分野・異業種への参入がしやすい環境づくり

○女性活躍の推進

○県立大学のあり方検討

○障害のある人や外国人をはじめ、誰もの「自分らしさ」が大切にされ、居場所があり、活躍できる共生社会の実現

(政策5より)

○暮らしをより豊かにするためのDX推進と人材育成

(政策7より)

○災害にも強い地域づくり、防災人材の育成・確保
○地域特性に合ったコミュニティづくりと地域づくり人材の育成・確保

(政策8より)

○事業承継と起業の支援
○産業のひとづくりの推進、新しい滋賀の高専づくり

(政策10より)

○農林水産業の担い手の確保・育成

(政策14より)

○環境学習等の推進

ここに列挙する施策は、施策の展開に合わせて内容を更新する

など

全体を通じて大切にする視点 **子ども・子ども・子ども**

社会の宝であり、共に生きる大切な仲間であり、未来を拓く光である「子ども」。「子ども」を大切に育み、「子ども」の思いや発想を大事にしながら一緒に社会をつくり、「子ども」と「子ども」に関わるみんなの笑顔が育まれるよう子ども政策を推進するとともに、あらゆる事業において「子ども・子ども・子ども」の視点をもって取り組む。

子ども・子ども・子どもの視点で進める主な施策

(政策2より)

○生まれる前からの切れ目のない子育て支援 ○「滋賀の宝」である子ども・若者を社会全体で応援
○困難な状況にある子ども・若者を支える ○子どもの目線で社会をつくる仕組みづくり

(政策4より)

○確かな学力と子どもの個性を大切にした生きる力を育む教育 ○ICTを活用した多様な学びの支援 ○笑顔あふれる学校づくりの推進 など

ここに列挙する施策は、施策の展開に合わせて内容を更新する

「変わる滋賀 続く幸せ」の実現に向け

「滋賀県CO₂ ネットゼロ社会づくり推進計画」に基づく施策の展開

CO₂ ネットゼロ社会の実現に向けた施策は、あらゆる行政分野にまたがり、全ての部局で取り組むべきものとの認識で、2022年3月に策定した「滋賀県CO₂ ネットゼロ社会づくり推進計画」に基づき施策を展開するとともに、基本構想の実現に向けて取り組む全ての事業のなかで、CO₂削減を意識し、資源・エネルギーの使用の合理化や廃棄物の発生の抑制などを図る。

CO₂ ネットゼロ社会の実現に向けた挑戦

「滋賀県CO₂ ネットゼロ社会づくり推進計画」より

第1. CO₂ ネットゼロにつながる快適なライフスタイルへの転換

省エネ住宅の普及、再エネの導入、次世代自動車などの普及 など

第2. 自然環境と調和するCO₂ を排出しない地域づくり

事業活動の省エネ化再エネ導入、歩いて暮らせるまちづくり、林業の成長、持続可能な農業の拡大 など

第3. 新たな価値を生みだし競争力のある産業の創出

CO₂ ネットゼロ産業の振興、グリーン投資の拡大 など

第4. 資源の地域内循環による地域の活性化

エネルギーや農林水産物の地産地消、廃棄物の発生抑制・有効利用 など

第5. 革新的なイノベーションの創出

水素エネルギー利活用の促進、エネルギー分野の専門人材育成 など

第6. CO₂ ネットゼロ社会に向けたムーブメントの創出

しがCO₂ ネットゼロムーブメントの拡大、MLGsのひろがり、環境学習 など

第7. 気候変動への適応

気候変動に強い産業などの育成、県民のリスクへの備え など

第8. 県における率先実施

公共施設の省エネ化の推進、公用車の電動化の推進、購入電力のグリーン化 など

あらゆる施策で可能性を検討する

DX推進

「変わる滋賀 続く幸せ」の実現に向け

「滋賀県DX推進戦略」に基づく施策の展開

暮らしをより健康的で豊かにし、地域社会の持続的発展につながる新たな価値を創造するための手段として、あらゆる施策を推進するうえでデジタル技術活用の可能性を検討し、柔軟に取り入れていく。

また、セキュリティ対策やデジタル格差対策が講じられた安全な環境の中で、デジタル社会の形成をめざすため、その基盤・ひとづくりに積極的に取り組んでいく。

○暮らしのDX ○産業のDX ○行政のDX ○基盤づくり ○ひとづくり